

## CSR 方針 2 環境

**環境負荷軽減の重要性を理解し、積極的に環境保全・向上活動に取り組みます。**

### 基本的な考え方

当社では、環境保全に対する姿勢を明確にする目的で「環境理念」を制定するとともに、その理念の具現化を進めていくために「環境安全活動方針」を策定しています。

#### 環境理念

長谷川香料株式会社はかけがえのない地球を未来に引き継ぐことが人類共通の重要課題であることを認識し、総合香料メーカーとしての全ての事業活動において地球環境保全に配慮して行動します。

#### 環境安全活動方針

当社では、「環境保全」と同様に、「保安防災」「労働安全衛生」「化学品安全」についても企業の重要なテーマとして「環境安全活動方針」に盛り込み、取り組みを行っています。

##### 環境保全

1. 省エネルギーの推進
2. 省資源、廃棄物の有効利用の推進
3. 臭気対策、環境汚染物質の排出低減
4. 環境管理体制の充実
5. グリーン購入の推進

##### 保安防災

1. 危険物安全対策の推進
2. 防災安全対策の推進

##### 労働安全衛生

1. 労働安全対策の推進
2. 労働衛生活動の推進
3. 労働環境の改善

##### 化学品安全

1. 化学物質管理体制の整備
2. 化学品安全対策の推進

## ステークホルダーとの関係性

### 顧客向けの情報開示

CSR 調達セルフ・アセスメント・ツール（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）、Sedex、EcoVadis、CDP 等のプラットフォームを通じた情報開示を行うとともに、お取引先からのサプライヤー調査への回答を実施しています。

### 従業員向け環境教育

環境教育を多面的に実施して、従業員の環境意識の向上に努めています。

- ・社内イントラネットによる教育、情報提供

環境関連ページを社内イントラネット上に掲載し、「サステナビリティレポート」をはじめ環境情報を提供しています。

2022 年度から海外出向者を含む国内全従業員（長期休業者を除く）を対象に SDGs 基礎知識に関する e ラーニングを実施し、受講後に理解度テストを行い、回答率は 100%を達成しました。また、回答結果をイントラネットで公開することで、サステナビリティに関する知識向上につなげています。

- ・社内環境セミナー

各事業所の環境安全委員会、教育委員会等が企画して、環境問題に関するセミナー・勉強会を開催しています。また、各拠点の要請により CSR 部員が講師を担当した勉強会を一部実施しました。

- ・社外環境セミナー

環境安全業務に携わる者は、専門的セミナー・講演会・展示会などに参加して、環境関連知識のレベルアップに努めています。

- ・新人教育

新入社員に対する教育を各事業所において実施しています。また、入社時の集合研修等、従業員に対する社内セミナーにおいて、環境・安全に関する研修を実施しています。

- ・環境マネジメントシステム（ISO14001）による環境教育

深谷工場、板倉工場及び総合研究所では、ISO14001 環境マネジメントシステムの中で教育・訓練を計画的に実施しています。また、各職場においては「ISO14001 掲示板」を設置して環境方針、環境推進ポスター、その他環境関連情報を掲示し、環境保全の促進に努めています。

### 株主への情報開示

当社 HP にてサステナビリティ（本レポート含む）に関する情報を開示しています。

## 貢献を目指す SDGs

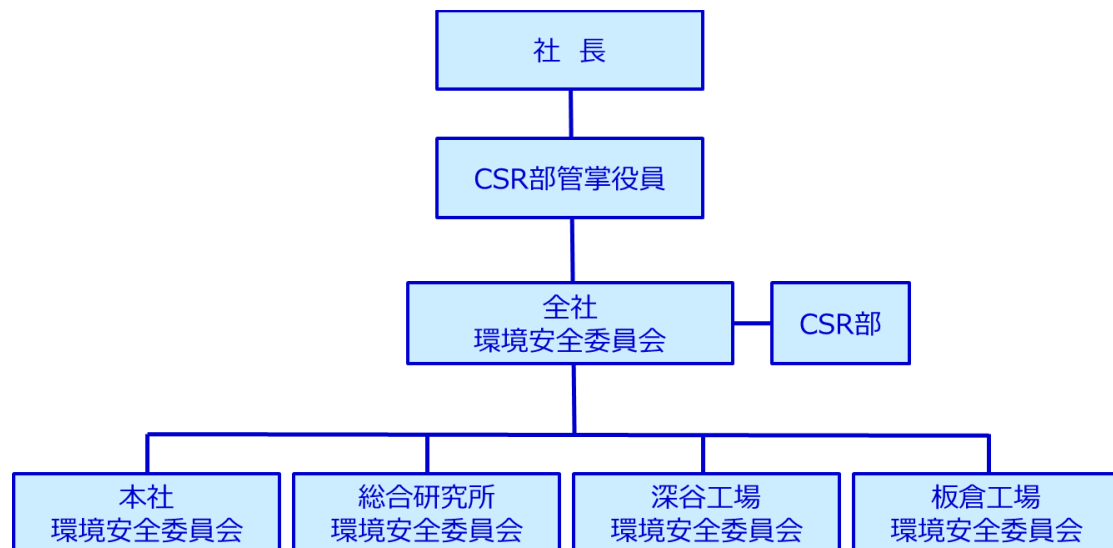


## 推進体制・ガバナンス

### 推進体制

「環境安全管理規程」に基づき環境安全管理体制を構築し、推進しています。

また、環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001 の認証を深谷工場・板倉工場・総合研究所で取得し、生産部門と研究部門が一体となって運用しています。



#### (1)全社環境安全委員会

- ①代表取締役社長が任命する CSR 部管掌役員を委員長とする委員会で、環境保全及び安全対策に関する全社的な方針、活動計画などを審議・決定します。
- ②各事業所の環境安全に関する活動計画・活動実績等の報告を受け、全社的な調整を行います。
- ③環境安全監査（環境保全 / 保安防災 / 労働安全衛生）の監査員を選任し、各事業所で毎年監査を実施します。

#### (2)各事業所環境安全委員会

- ①本社、総合研究所、深谷工場及び板倉工場に、それぞれ環境安全委員会を設置し、担当役員や工場長などを委員長として、本社を除き毎月開催しています。
- ②全社的な活動方針に則り具体的な活動方針・目標を定めて、環境及び安全に関する活動を推進しています。

#### (3)CSR 部

- ①CSR・SDGsに関する基本施策の立案・推進を行っています。
- ②長谷川香料の環境安全活動について総括管理を行っています。
- ③全社環境安全委員会及び環境安全監査などを事務局として計画・運営しています。
- ④サステナビリティレポートや当社 HP 等を通じて関連情報を開示しています。

#### (4)ISO14001

2001 年に深谷工場及び板倉工場において、一般財団法人日本規格協会より環境マネジメントシステム ISO14001 の認証を取得し、活動してきました。なお、現在の認証機関は DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社となっています。また、生産部門は、当社の中でも特に環境負荷の大きい部門ですが、両工場が協力し、ISO14001 のシステムに基づき、PDCA サイクルを回して継続的改善に取り組んでいます。また、2012 年 6 月には、総合研究所を適用範囲に加え、研究開発段階から環境負荷軽減への取り組みを強化しています。また、海外拠点においては 2015 年から蘇州工場で認証継続されています。

#### 「ISO14001 環境方針」

長谷川香料株式会社深谷事業所、総合研究所は食品香料、香粧品香料、合成香料、食品添加物、食品および香粧品素材などの生産・研究開発を行う総合香料メーカーとして環境との調和の重要性を認識し、社会に信頼される企業を目指します。この実現のため、以下の方針に基づき環境に関する活動を実施していきます。

- ①省資源、省エネルギーを推進し、地球環境の保護に努めます。
- ②廃棄物の削減及びリサイクルを推進します。
- ③適用サイト及び周辺環境管理を強化し、汚染の予防に努め、地域社会との共生を図ります。
- ④環境に関する大気、水質等の法律、協定を順守します。
- ⑤内部監査等を行い、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- ⑥環境教育を行い、全従業員の環境に関する意識の向上に努めます。

#### ガバナンス

各事業所において環境安全監査を毎年実施し、結果を戦略会議で報告することを環境安全管理規程で定めています。また、生産部門・研究部門では ISO14001 の認証を取得しており、環境管理システムが有効に機能していることを確認しています。

#### 全社環境安全委員会による環境安全監査

1997 年から全社環境安全委員会が、環境保全と安全対策に関する監査を実施してきました。

2008 年以降、監査内容を「環境保全監査」「保安防災監査」及び「労働安全衛生監査」に区分し、きめ細かくチェックする仕組みに変更しました。監査に際しては、それぞれ専門的な監査員を選任し、監査員は環境に関わる法令の遵守、活動の状況、関連施設管理状況等をチェックし、改善事項には改善指摘書を発行します。これに対し被監査事業所では、指摘事項に対する改善計画を作成し、全社環境安全委員会に報告した上で改善を実施していきます。2022 年度は 7 月に各事業所についてそれぞれ監査を実施しました。結果は全社環境安全委員会で審議後、戦略会議へ報告し、必要に応じて取締役会に付議・報告することとしています。

## ISO14001 と内部監査（環境）

当社では ISO14001 の認証を深谷工場・板倉工場・総合研究所で取得しています。内部監査の実施については、環境マニュアルで規定されている内部監査チームにより監査を実施しています。

当社の中でも特に環境負荷の大きい生産部門では、両工場が協力し、ISO14001 のシステムに基づいた運用（PDCA）を実施しています。

また、指摘事項が示された場合には迅速に是正対応を行い、他部署にも水平展開し、継続的な改善を図っています。

なお、中国の蘇州工場では 2015 年に ISO14001 認証を取得し、環境改善活動を実施しております。

## リスク・機会と戦略

### リスク

- ・ 法令・規制遵守徹底の不備による行政処分や訴訟
- ・ 地域社会の環境保全の阻害
- ・ 社会的評価の低下
- ・ 顧客からの取引停止等
- ・ 気候変動による原材料の不作
- ・ 災害等によるサプライチェーンの寸断

### 機会

- ・ 気候変動によって生じる社会的ニーズへの対応

### 戦略

- ・ 法令遵守やリスクへの対応を徹底します。
- ・ CSR 方針に則り、環境課題を解決し、成長戦略へとつなげていきます。

### 関連施策

- ・ 戦略会議における長期視点での目標検討・決定と全社環境安全委員会での施策の進捗管理、グループ全体への啓蒙
- ・ 地球温暖化対策の徹底（環境安全委員会活動を通じたエネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の削減、省資源、廃棄物の堆肥化を通じた有効利用）
- ・ CSR 調達セルフ・アセスメント・ツール（グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン）、Sedex、EcoVadis、CDP 等のプラットフォームに加盟、情報開示による透明性の維持
- ・ 情報開示、トレーサビリティの担保による顧客との取引拡大
- ・ イノベーションの加速、SDGs の目標の実現に向けた新製品の開発・提案、販売
- ・ 炭酸感増強香料（炭酸エンハンサー®）、天然光劣化防止剤等の使用で、ペットボトルの薄肉化や軽量化により容器原材料の省資源化に貢献

## 2022 年度の主な取り組み

### (1)TCFD への取り組みと CDP 評価

長谷川香料グループではTCFD 提言への賛同を 2022 年に表明し、気候変動リスク分析を開示しました。

その中で TCFD の要請事項を踏まえた、シナリオ分析を行っています。

詳細は「長谷川香料グループの気候変動リスク分析」をご覧ください。

ホーム> サステナビリティ> TCFD 提言に基づく開示> 長谷川香料グループの気候変動リスク分析

[https://www.t-hasegawa.co.jp/files/hasegawa\\_group\\_tcfcd.pdf](https://www.t-hasegawa.co.jp/files/hasegawa_group_tcfcd.pdf)

なお、2022 年度の CDP 気候変動分野については、「環境リスクやその影響に対するアクションをとっていることを示す」とともに、「環境リスクやその影響をトラッキングし、緩和したりなくしたりしようとしている」ことを示すマネジメントレベルの「B」の評価を受けています。

### (2)環境会計

環境保全活動を効率的かつ効果的に進めていくために、環境省の「環境会計ガイドライン」を参考にし、環境会計を実施しました。(参照：ESG データブック 2023)

### (3)環境負荷軽減に向けた取り組み

#### ・エネルギー使用

当社は省エネルギーを重要な課題として捉え、積極的に取り組んでいます。全社的な省エネルギー活動を実施するほか、生産部門の全ボイラーをCO<sub>2</sub>排出量の少なく燃焼効率の良い機種に更新するとともに、特別高圧受変電設備や、エネルギー監視システムを導入するなど省エネルギーを推進してきました。省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場である深谷工場及び板倉工場では、エネルギー使用の合理化基準を定め、省エネルギーに努めています。

2022年度は製造工程の改良と処方合理化、運用見直しによる蒸気ロス削減、ボイラー運転の効率化等を実施しました。結果、エネルギー使用量を前年比1,372GJ削減し、エネルギー原単位は4.2%改善、目標値である前年比1.6%削減を達成しました。(参照：ESGデータブック2023)

#### ・CO<sub>2</sub>排出

2022年度スコープ1、2は前年比1.6%削減、また2013年度を基準とする2030年度46%削減目標に対して、22%削減しました。

削減計画の一環としてグリーン電力調達を開始し、本社ビルは2021年12月より使用量の100%、総合研究所は2022年3月より10%を調達しています。電力使用量の多い生産部門においては、深谷工場では2023年1月より10%の調達を開始するとともに、板倉工場では2023年6月より10%の調達を開始予定です。

CO<sub>2</sub>排出量（スコープ1～3）第三者検証を、2021年度は当社単体、2022年度は国内連結で実施しています。(参照：ESGデータブック2023)

#### ・ 用水使用

当社は、用水を冷却及び洗浄用にも使用しています。これまで製造方法の改善による冷却水の削減、洗浄方法の最適化や冷却水循環式設備の増設などで用水使用の削減に努めてきました。2022年度は用水使用量を前年比1.3%削減しました。

また、気候変動に加え世界的な水資源への関心の高まりや重要性を踏まえ、全社環境安全委員会（委員長：CSR部管掌役員）において水リスクに関する戦略と取り組みを監督する仕組みの構築を進めました。過去の用水使用量データを活用し、環境安全委員会で数値目標を設定しています。特に使用量の多い生産部門では増減理由及び実施した削減施策を毎月報告しています。（参照：ESGデータブック2023）現時点では当社生産エリアでの水リスクは高くないと把握していますが、世界的に水は貴重な資源であり、管理強化は重要と認識していることから、今後も継続して適切に対応していきます。

#### ・ 排水処理

1969年、深谷工場に排水処理施設を設置して以来、活性汚泥法、加圧浮上法、嫌気性処理法、凝集沈殿法、膜濾過法など様々な排水浄化技術を採用した排水処理施設を増設し、排水処理の改善に努めてきました。

各工場の排水は排水処理設備で三次処理を行い適切に処理し、研究所の排水は排水処理設備で二次処理まで行い下水へ排水しています。水質汚濁防止法、県条例及び地域との協定で定められた排水規制値等の排水基準を遵守しています。（参照：ESGデータブック2023）



排水処理設備（板倉工場）

#### ・ 廃棄物の有効利用

当社は多品種の香料製品を製造しており、様々な廃棄物が発生しますが、有効利用に取り組み、廃缶類、紙類、廃ガラス、廃油等の再資源化を積極的に推進しています。また、埋立廃棄物の発生抑制に努めています。2022年度の有効利用率は96.4%となりました。（参照：ESGデータブック2023）

臭いの少ない缶類は再生缶を製造する業者に、また廃液類の一部は再利用技術を有する業者に処理を依頼しています。

2022年の日本における「プラスチック資源循環法」の施行やプラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書（条約）の策定に向けた政府間交渉の動きなどに見られるように、プラスチック類の使用削減と廃棄処理については、一層真摯に対応していかなければいけない課題と認識しています。当社では、プラスチック類をリサイクル可能な状態に分別しています。

廃棄物処理業者の選定は、処分場を見学し適正に処理が行われているかを確認するとともに、定期的に監査を実施しています。また、廃棄物は排出者責任があるため、環境安全監査にて年に一度深谷工場、板倉工場、総合研究所、本社の廃棄物処理状況の監査を実施し、指摘事項が生じた場合は速やかに是正しています。2022年度の環境安全監査では、管理が適正に行われていることを確認しました。



廃棄物の有効利用の一例として、多量に発生する天然物抽出後の残渣（植物性残渣）は長野県南佐久郡小海町にある株式会社小海コンポース（当社出資比率45%）で発酵堆肥化した後、高原野菜農家等で利用されています。



堆肥散布（長野県小海町）



野菜畑（長野県小海町）

#### ・臭気対策

香料を製造する企業として、臭気対策（悪臭防止）には特別に注意を払っています。様々な脱臭技術を採用した多数の脱臭装置の稼働により、臭気の排出防止に努めています。

また、臭気対策の一環として、構内及び周辺地域の環境パトロールを定期的を実施しています。



脱臭設備（板倉工場）

#### ・集塵対策

製造時における作業環境改善の一環として一部の製造部には、集塵機を設置しています。

#### ・生物多様性の保全

香料の製造には、エネルギーや天然原料及び合成原料、水などの資源を利用しており、バリューチェーン全体でみると生態系に何らかの影響を与えている可能性があります。

香料が貢献できるテーマの一つが「消費量の多い食資源の代替品開発と使用量削減」です。例えば、肉類、乳、砂糖、ラード、パーム、コーヒー、茶、カカオ、ナッツなど需要の増加が見込まれる食品については、加工食品中の使用量を減らしても風味を香料で補えば、嗜好度を落とすことなく生活者に届けることができます。また香料の使用は、食資源保護につながることに加え、天然の食材よりも、低価格にて安定供給することが可能です。

もう一つは「フードロス削減」です。製剤化技術で香料を粉末化することで、香料を運ぶための容器コストと輸送コストの削減につなげるだけでなく、食品の保存性能の向上につなげることが可能です。また、炭酸感増強剤や光劣化防止剤を利用することで、ペットボトルの軽量化や食品の賞味期限の長期化に貢献しています。

当社の事業性や地域性に配慮した活動を推進するとともに、事業活動と生物多様性との関係性を体系的に把握し、社内教育などを通じて生物多様性への理解を深めていけるよう努めていきます。



2022年度は、次年度以降の生物多様性関連の情報開示に向けて、様々な活動を開始すべく、情報収集を開始しました。

#### (4)環境目標と実績

| 環境目的                                  | 2022年度目標                                    | 2022年度実績                                                                    | 中長期目標                     |
|---------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| <b>1.環境管理体制の充実</b>                    |                                             |                                                                             |                           |
| 1)環境マネジメントシステムの継続的改善                  | 環境保全活動の継続的運用、改善<br>ISO14001（認証取得部門）の継続運用、改善 | 長谷川香料全部門で実施<br>製造・研究部門でISO14001の継続運用、改善                                     | 継続実施<br>継続実施              |
| 2)環境監査の実施                             | 環境安全監査の実施<br>ISO14001 審査、内部環境監査の実施          | 環境安全監査を実施<br>ISO14001 認証取得部門で実施                                             | 継続実施<br>継続実施              |
| 3)環境安全教育の推進                           | 各種教育の計画、実施<br>ISO14001 教育訓練の計画、実施           | 社内イントラネット教育、その他の教育を実施<br>ISO14001 認証取得部門で実施                                 | 継続実施<br>継続実施              |
| 4)環境管理の改善                             | サステナビリティレポートの発行<br>環境会計の実施                  | サステナビリティレポートの発行<br>環境会計の実施                                                  | 継続的改善<br>内容充実             |
| <b>2.省エネルギーの推進</b>                    |                                             |                                                                             |                           |
| 1)エネルギー使用の削減                          | エネルギー原単位 対前年度1.6%削減                         | 1,372GJ削減(対前年度0.5%減)<br>(生産量原単位4.2%削減→目標達成)                                 | 継続実施                      |
| 2)CO <sub>2</sub> 排出量の削減<br>(スコープ1,2) | CO <sub>2</sub> 排出量 2013年度比25%削減(総量)        | 4,128 t 削減 (2013年度比22%減)                                                    | 2030年度までに<br>2013年度比46%削減 |
| <b>3.省資源、廃棄物の有効利用</b>                 |                                             |                                                                             |                           |
| 1)省資源の推進                              | 用水使用量 継続的改善<br>事務用紙使用量 継続的改善                | 用水使用量5,522m <sup>3</sup> 削減<br>(対前年度1.3%減)<br>事務用紙使用量871kg減<br>(対前年度5.7%改善) | 継続的改善<br>継続的改善            |
| 2)廃棄物の有効利用の促進                         | 廃棄物有効利用率 継続的改善                              | 有効利用率96.4%<br>(対前年度1.2ポイント悪化)                                               | 継続実施                      |
| 3)埋立処分量の削減                            | 埋立処分量ゼロ                                     | 埋立処分量0 t<br>埋立ガラス廃棄物の有効利用化                                                  | 埋立処分量ゼロ                   |
| <b>4.環境排出の抑制</b>                      |                                             |                                                                             |                           |
| 1)大気汚染、水質汚染の防止                        | 自主規制値による管理(工場)                              | 自主規制値内で適正管理<br>排水処理施設の改修                                                    | 継続的改善                     |
| 2)臭気対策                                | 脱臭設備の増設、適正管理<br>臭気バトロールの実施(工場、研究所)、臭気苦情ゼロ   | 適正運転、臭気苦情0件                                                                 | 継続的改善                     |
| 3)化学物質管理                              | PRTRの実施(PRTR法及び自主管理物質)                      | PRTR実施                                                                      | 継続実施                      |
| <b>5.グリーン購入</b>                       |                                             |                                                                             |                           |
| 1)グリーン購入の推進                           | グリーン購入の推進                                   | グリーン購入基本原則・ガイドラインによる運用                                                      | 継続実施                      |

## 今後に向けて

- ・再生エネルギー調達を促進し、スコープ 1、2 の中長期的な CO<sub>2</sub> 排出量削減に取り組みます。
- ・引き続きCO<sub>2</sub>排出量第三者検証を実施し、算定方法の正確性とデータの信頼性を保持します。
- ・用水使用量削減目標を設定し、施策の進捗を確認しながら使用量の削減に努めていきます。
- ・生物多様性に関するリスク、機会とそれらが及ぼす影響を見極め、TNFD（Taskforce on Nature-related Financial Disclosures：自然関連財務情報開示タスクフォース）に沿った開示を進めるべく、検討を開始します。